

第8章 進捗管理

新総合計画（基本構想・基本計画・実施計画）の執行管理システムとして、市域全体のまちづくり計画と地域まちづくり計画にPDCAサイクル（PLAN（計画）→DO（実施）→CHECK（チェック・評価）→ACTION（改善））に基づく進捗管理の仕組みを位置づけ、持続的なサイクルを通じた持続的な成果の追求と、メリハリのある選択と集中を追及します。

政策・施策・事務事業の進捗管理システムを総合計画の執行管理システムとして位置づけるために、アウトカム指標を用い、目標を数値化して設定します。

1 新総合計画における構想・計画のマネジメント上の役割

（1）基本構想

理念体系としての基本構想では、「私たちの政府」による藤沢づくりを支える「新しい公共」「地域分権」の理念を総合計画内外に浸透させることによって、「将来像」「都市ビジョン」「藤沢づくりのめざす方向性」を実現することを総合的なビジョンとして位置づけています。

（2）基本計画

価値情報体系としての基本計画では、「藤沢づくりのめざす方向性」に基づき区分された「重点・ふじさわ未来課題」をゴールとし、市域全体のまちづくり計画では、「戦略目標」「政策（活動の指針）」「市域まちづくり指標（現状値、めざそう値、役割の担い手）」を示します。

また、地域まちづくり計画では、「地域まちづくり目標」「地域まちづくり活動（活動の指針）」「地域まちづくり指標（現状値、めざそう値、役割の担い手）」を同様に示します。

（3）実施計画

行動体系としての実施計画では、政策、地域まちづくり活動で示した活動の指針と成果の視点、実施事業の内容をふまえ、政策のアウトカム指標・アウトプット指標等を明らかにしつつ、具体的な「まちづくり事業」を確認・検討をし、その目標、効果等を示します。（詳細は実施計画の策定時に示します）

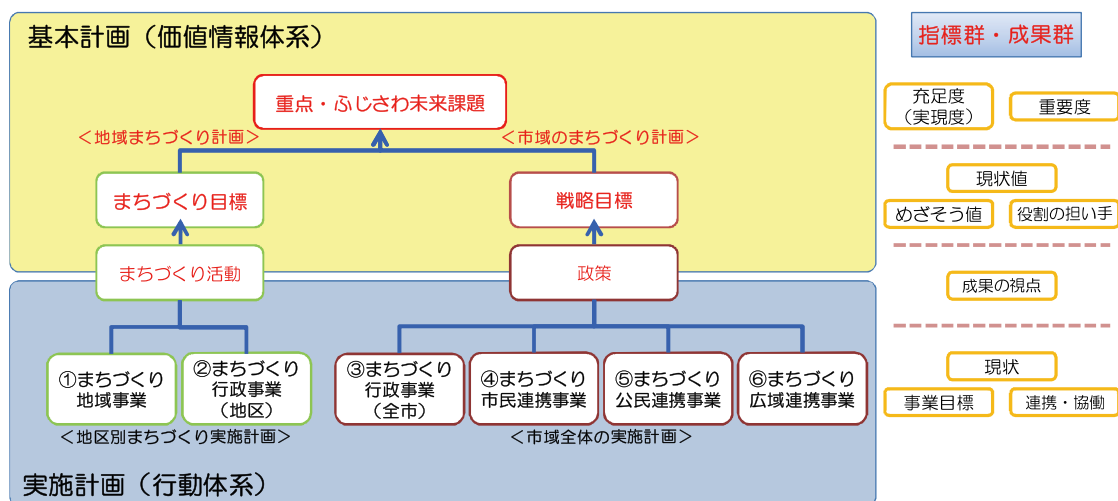


図7 進捗管理における新総合計画の構成

2 構想・計画のフレーム

基本構想、基本計画、実施計画は、それぞれの役割を機能させることを前提に策定をし、また、活動・事業に対して効果的に機能し、基本構想の理念を着実に反映させるため、次の体系によって構成します。

(1) 構造体系

基本構想・基本計画の構造は、ロジックモデルの発想にたち、実際の活動が「重点・ふじさわ未来課題」の実現や改善に結びつくために、「これができていれば未来課題が達成された」と想定される要素群を検討して仮説を立て、その仮説を検証していきます。

将来像をはじめとしたビジョンの実現のために、「重点・ふじさわ未来課題」というゴールを設定し、ゴールを具体化した「まちづくり目標」「戦略目標」に向けた活動の方針を定めつつ、具体的な活動を検討し、それぞれを位置づけるという枠組みに基づき計画を策定します。

(2) 評価体系

基本構想・基本計画の評価に当たっては、成果重視の指標を設定し、評価をします。

これは「これができていれば未来課題が達成された」と想定されるものを表し、「どこまで実現しているか」「どこまで改善できているか」を調査し、分析することにより、一層の向上をめざすものです。

指標は、目標の達成度合いの「善し悪し」を判定することが目的ではありません。

ません。

むしろ、指標を契機として、目標の達成手段としての関連施策の有効性を比較検討したり、目標が十分達成されていない場合に、その原因を外部要因の影響も含めて明らかにしたりすることによって、成果について説明し、成果重視の観点から、目標達成に向けた様々な活動主体（市民・市民ボランティア・NPO・大学・企業等）による活動呼び起こす動機付けとなることを目的としています。

(3) 実感のモニタリング

ふじさわ未来課題を中心にした仮説と活動を評価するため、生活実感、行政実感、地域での活動実感等を聴くこと（＝モニタリング）を継続的に実施し、進捗管理を行うことで、より良い活動の実践や未来課題の実現につなげていきます。

3 ローリング

P D C Aサイクルに基づく進捗管理に当たって、計画のローリングを実施します。基本構想では、基本計画は3年ごとに、実施計画は毎年ローリングすることとしています。

(1) 藤沢づくりのローリング

ア 基本計画は3年ごとのローリング

戦略目標に対して設定された「市域まちづくり指標（めざそう値・役割の担い手）」と、毎年現状値測定による経年変化を参考に、3年の政策の進捗管理（P D C Aサイクル）をふまえ、基本計画施行3年目に検証と改善を行います。

原則として、ふじさわ未来課題の充足度（実現度）等に関するアンケート調査を実施し生活実感を確認することや、各種定量分析結果などを基にした行政実態の確認、地域や市民活動の実態の把握などを行います。

イ 実施計画は1年ごとのローリング

実施計画は、基本計画の3年ごとのローリングも念頭に置きながら、1年ごとのP D C Aサイクルにより進捗管理を行います。

したがって、毎年度6月頃までには、前年度事業の検証を行い、9月からの予算編成作業に向けて次年度実施事業を精査し、反映させます。

市民満足度や成果等が得られない行政事業は、再構築を行います。

(2) 地域づくりのローリング

ア 基本計画は3年ごとのローリング

「地域まちづくり目標」に対して設定された「地域まちづくり指標（めざそう値・役割の担い手）」と、毎年の現状値測定による経年変化を参考に、3年間のP D C Aサイクルを想定し、基本計画施行後3年目に検証と改善を行います。

イ 実施計画は1年ごとのローリング

実施計画は、基本計画の3年ごとのローリングも念頭に置きながら、1年ごとにP D C Aサイクルによる進捗管理を行います。

毎年度6月頃までには、地域経営会議と市民センター・公民館は、前年度の、様々な主体による事業の現状把握を行い、市民センター・公民館は、執行管理工程を報告します。また、地域での様々な調査等を行い、成果を検証します。

(3) 基本計画の見直し（前期見直し、6年目）

基本計画実行後、6年目に実施します。評価については、3年ローリングでの評価方法を基本としつつ、次の事項についても検証します。

ア 社会経済状況、「私たちの政府」による藤沢づくりを支える新しい公共と地域分権の理念の浸透度や成熟度を加味しながら、「ふじさわ未来課題」の評価、ウェイト（重み付け）の再評価を行います。

イ 目標の現状検証・評価を行い、目標の入れ替えや再設定を行います。未来課題の経年変化等についても検証します。

ウ 望ましい活動や高い成果を挙げた事業等について顕彰し、自助・共助・公助の相互研鑽を高めます。

4 行政マネジメントとの連携

行政事業については、他の行政マネジメントシステムとの連動を図る必要があります。行政評価をはじめとする行政マネジメントシステムには、今後、「ふじさわ未来課題」の実現や改善に寄与しているかという視点を加えます。

これは、市民、地域と行政が協働で進めるまちづくりに共通の視点で取り組むということによるものです。

(1) 行政マネジメントシステム

現在の行政マネジメントシステムについては、次のとおりです。
このほかにマニフェスト事業に関する進行管理が行われています。

表 20 行政マネジメントシステム一覧

名称	概要
行政評価	政策的経費及び経費内に減価償却費等や償還金利子を含む一般行政経費に係る事業を対象に事務事業評価（事後評価）を実施するもの。
事業仕分け	市のサービスの質的向上、事業効率化、経費削減を目的に、市の実施事業について、実施主体、必要性、効率性の観点で、外部の評価者が議論し、事業の方向性を考えるもの。
事業再構築	スクラップ・アンド・ビルドの手法により、目標・効果、目的達成度、時代変化への対応、市民ニーズ、事業手法、事業継続性、民間活用、適正な財政負担等について徹底して検証し、事業の廃止や再構築を行うもの。
公民連携事業化提案制度	すべての事務事業を新しい公共の視点に立って、最も効率的・効果的なサービスの提供を行うことを目的として、市民・市民ボランティア・NPO・大学・企業等の多様な主体とのパートナーシップに基づき役割分担と責任に基づき公共サービスを提供することが可能と考える活動主体から、自由にアイデアの提案を受け、採択後事業化の検討を行う制度。

（2） 総合計画マネジメントとの連動

他の行政マネジメントシステムは、事業ベースで実施されるため、基本計画のマネジメントとは区別して実施しますが、「ふじさわ未来課題」の実現や改善に寄与しているかという視点を加えることで、実施段階での連動性を高めることを追求します。

実施計画のうち行政の担う事業については、毎年度、事業の効率性や妥当性等を測定、評価をしつつ、各事業の軌道修正を図り、ローリングに合わせて、実施計画事業としての改定を行います。

また、進捗管理だけでなくサービス評価、アウトカム評価について、事業に対するものを含めて集約し、施策評価を中心としたものに位置づけます。

（3） 総合計画における理念・価値の浸透

基本計画の改定年次には、施策及び中長期アウトカム指標の見直しに対する事業のスクラップ・アンド・ビルドを実施します。

また、事業仕分け、事業再構築、行政評価については、総合計画の理念、価値を前提としつつ、効率性、妥当性評価を中心に検証するものとして位置づけるとともに、マニフェスト評価（進行管理）と区別します。

（４） 新総合計画の進捗管理の仕組み（外部評価）

新総合計画（基本構想・基本計画・実施計画）の進捗管理を外部の目線で評価するための仕組みを別途設置します。



2011 年（平成 23 年）4 月発行

藤沢市経営企画部経営企画課

〒 251-8601 神奈川県藤沢市朝日町 1 番地の 1

TEL 0466-50-3502 FAX 0466-50-8402

E-Mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

※本誌に掲載した写真については、2010 年版「わがまちふじさわ景観ベストテン」入賞作品から引用させていただきました。

制作・印刷／昭和株式会社